

今日の説教のポイント <創世記3章14-19節>

①蛇とは何か？ ここで私たちが考えるべきことは？

蛇は何を意味しているのでしょうか？ 爬虫類のあの蛇を考えても仕方なく、むしろ、大概の人が苦手とするあの姿に変えられることでもって、人を神様に背かせた罪の重大さを考えさせようとしているのは明らかです。私たちは、蛇で、色々なものを通し、色々なものに形を変えて私たちが神様から離れさせようとする悪魔的諸力を考えるべきでしょう。私たちの回りには、色んな蛇が取り囲んでいますね。しかし、神様は、「蛇の子孫が女の子孫のかかとを砕き、女の子孫が蛇の子孫の頭を砕く」と予告されました。ルターがここに、「キリストによる罪の支配の打ち破り」を見たのは信仰的理解だと思えます。蛇より強い神様の導きの約束。ここにも神様の恵みを読み取ったのです！

②神様が、女には産みの苦しみと男による支配を、男には労働の苦しみを与えられた？ この聖書の言葉から聞くべきことは？

14節から19節までには、罪を犯して神様から離れた人間に訪れる苦しみの様子が、聖書を記した当時の人々が苦しみと思った代表的なものによって描かれています。それは、女にとってはお産の苦しみや男尊女卑。男にとっては労働の苦しみです。ここで本当に伝えたいことは、私たちが神なしに生きようとする限り、苦しみは姿を変えて次々と私たちに襲って来るという事実です。

では、ここで神様は、「人間は罪を犯すのだから、人生は苦しみでしかない」、と言われているだけなののでしょうか？ そうではありません。パウロは、自分のような者が今生かされていること自体に驚きと喜びを覚えて、「もはや男も女もありません」(ガラテヤ3:28)と言える者となり、自己栄達のために働くのではない労働を知り、隣人の救いのためにはどんな苦しみも苦悩とは思わない人生を送る者となれたのです。それは、神様がご自分の下に立ち帰らせるために用意して下さった道、イエス・キリストによる救いの道を知ったからです。

今ではお産や労働の苦しみは軽減できます。しかし、神無しに人生を生きようとする限り、罪が作り出す苦しみに私たちは襲われ続けます。その苦しみから本当に解放されるためには、私たちの罪をお赦し下さる神様に立ち帰り、招きを受け入れて生きることなのです。